環境新聞・ユーレット合同企画 環境と財務の「見える化」へ 10 100 15,130 90

雪を蓄え、春や夏季の冷 室(ゆきむろ)に冬季の 鳥取県日野郡)では雪 奥大山ブナの森工場 ことが分かる。 トに黒字を確保している 当期純利益もコンスタン 方のCO2排出 をはじめ、キャップやラ ベルも含む多面的な軽量 場では、PETボトル自 化を進めている。一部工

熱源として利用するな た余分な熱も空調用の温 熱負荷の一部に活用する J、独自のユニークな取 方、生産工程で発生し る。このように、同社で かけてほぼ横ばいであ 30・6万少となってい 08年度の排出量は、 04年度から8年度に 997年から自社基準 社成型にも取り組み、 定している。 設計ガイドライン」を設 環境に係る容器包装等

は1兆5千億円を超えて 増加して2008年度に り組みに着手しているサ を見ると、売上高は年々 O2排出量の推移 ノ ト リー。 同社の財務状況とC **図** は売上規模を拡大しなが 実現できている様子がう は、容器包装の取り組み て最も注力しているの かがえる。 らCO2排出量の抑制を 環境負荷削減に当たっ Tボトル入りの飲料ラベ デリットルの小容量PE ラベル」を導入。従来の 「シュリンクラベル」よ ルに、はがしやすくリサ イクルが容易な「ロール 今年4月には、280

16,000

14,000

12 000

10.000

4,000

0

主要工場すべてで重油か ては、昨年までに全国の

る「ノンフロン・ヒート

消費電力を43%削減でき

また、従来型と比べて

ポンプ式自動販売機_

にも取り組む。昨年は1 設置し、販売時の省エネ 2004 年度

ことができるとしてい

5・3%減となってい

CO²排出量は前年度比 こうした物流の効率化で

工場での取り組みとし

CO2排出量を削減する

2005 年度

-の財務状況とグル

減、年間で約120ヶの

のCO2排出量を50%削

13,167

ビール業界編③

成功した。

サントリー天然水・奥

昨年4月に発売した

キャップも軽くすること

いの樹脂を削減できると

する「サントリー天然

また、九州地区で販売

水・阿蘇」の2以PET

れにより、年間約315

いう。CO2排出量に換

で従来品の16%減、1本

増となっている。また、 おり、4年度比で約15%

だという。 PETボトル

り薄く小さくラベルを軽

量化することで、製造工

程で発生するCO2排出

太山

に使用する2以P

当たり8・5グラムの軽 量化を実現している。こ

量を78%削減することに

ETボトルは、ボトル本

体だけでなく、ラベルや

やガラスびんなどの容器

14.948 14,139 13.737 80 70 ■ 売上高(億円) 当期純利益(億円) 排出量(万トン) 60 50 40 32.0 29.2 30.6 30.1 28.5 30 20 10 321 260 241 178 173

2006 年度

ルディングスのWeb サイ

サイクルまでの全工程で

ている。昨年度は、販売 距離、時間の削減を図っ や、空車状態で走行する

数量が増加したものの、

ら輸送、消費した後のリ

べて、包装資材の製造か

従来の段ボール梱包に比 込み、梱包するもので

2007 年度

トのデー

- プ全体のCO2排出量の推移

透明フィルムを使って6 用の段ボールを使わず 従来のペットボトル梱包

車システム」の導入や、

では自社開発の

一方、物流、

本のPETボトルを包み

業との共同配送などで、 使用車両の大型化、他企

使用するトラックの台数

2008 年度

包装」を導入している。

進んでいる。

ボトルに、「エコクリア

取り組みも

1

8,000 6,000 2,000 ら天然ガスや都市ガスへ

算すると、年間約940

シの削減になる。 の燃料転換を完了し、C

02排出量を5600% とを目指しているとい

十台を新たに導入するこ 千台を設置した。今年3

然エネルギーを導入する 光、マイクロ水力など自 削減した。風力や太陽 バル・西野嘉之) 子、メディネットグロー 〈環境新聞社・江頭佐